

先日、本区の中学校で俳句講師派遣事業による俳句授業を行いました。3年生の生徒さんは、静かに講師の話に耳を傾けていました。



小学校で俳句を学んできた生徒さんたちです。「俳句は五七五の音数でつくる」「原則、季語を一つ入れる」ことを確認してから作句活動に入りました。

まず「五音」の言葉探しです。教室の中にあるもの、靴の中にあるもの、部活動に関連しているもの、身に付けているものなど、見えたもの思いついたものを挙げていきました。当初は緊張した様子の中学生も、講師が「ラブレターも五音ですね。靴に入っているかな？」と声を掛けたら、そのとたんに空気が軽くなりました。

ペンケースを見ながら「ボールペン」「テープのり」、「歯医者に行ったから」と「親知らず」、周囲を見回し「参考書」「体操着」「応援旗」「優勝杯」等々。

講師の次の働きかけは、見つけた五音の言葉と季語を合体させて俳句を作ることです。講師から「夏来る」「夏初め」「夏の空」「青葉（風）」「若葉（風）」「風薫る」「青楓」「つた若葉」「葉桜〇」「花は葉に」等の季語が紹介されました。「運動会」は「歳時記では『秋』に分類されているけれど、実際に開催されたから、使ってもいいですよ」とも伝え、使いたい季語と合わせることにしました。

中学生らしく「参考書が気になる」という意見が出ました。「どんな参考書？」との問いに『葉桜や新品のまま参考書』『参考書めぐりたくない花は葉に』という発言があり、「わかる～」の声があがりました。

句会では、①自分では思いつかなかったひらめきがあるもの ②自分も思いついたけどどうまく俳句にまとめられなかった表現力があるものを選ぶ、ということで、気に入った俳句の良さを交流しました。

生徒作の俳句を紹介します。

<教室にあるものから>

花は葉にきれいに畳む体操着
向日葵や伸び代のある参考書
葉桜や付箋だらけの参考書

<部活動が終わってから>

部活後まだまだ明るい夏の空
夕焼け空部活帰りのグラデーション

<運動会話題から>

逃げ場ないどこへ行っても炎天下
クラス旗を空高く振る運動会
クラス旗が元気にたなびく若葉風



<日常生活から>

蛍光ペンの窓から覗く「夏」の文字
夏の空届くと言ひ張るミニマッコ
手花火で気になるあの子と勝負する